

ZSSSK

生活科・総合教育だより

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会会報

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

事務局 東京都江東区立北砂小学校
〒136-0073 東京都江東区北砂1-3-36
TEL 03 - 3649 - 3462

発行人 茂木 三枝
編集人 長谷川 かほる

第 20 回全国小学校生活科・ 総合的な学習教育研究協議会 研究大会～大阪大会～を振り返って

大会実行委員長 前田 都陽子
(大阪市立磯路小学校長)

好天に恵まれ、第20回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会、並びに第14回近畿地区小学校生活科教育研究協議会、第19回大阪府小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会の大阪大会が、大阪市立磯路小学校、堺市立北八下小学校、及び大阪市中央公会堂で開催されました。

生活科が誕生して20年、総合的な学習の時間については、10年目を迎え、さらに新学習指導要領全面実施の年という節目に研究大会の機会をいただき、これからのそれぞれの学習の在り様に一石を投じることができるようにしたいと考えました。

そこで、大会テーマを「響け！学びのトライアングル～学びを実感できる生活・総合」と定め、学習の要素を「体験」「表現」「協同」とし、その三要素をうまく響き合わせるための教師のコーディネート力について、研究を進めることにしました。

大会1日目は、前述の2校を会場校として、公開授業と大阪市・堺市のそれぞれの取り組みの発表、そして、全国の取り組みについて情報を共有する課題別分科会を行いました。両校共、大会主題の基、学びの3要素を学習活動に適切に位置付け、教師のコーディネート力の在り様について、「本物にふれる」「試し繰り返す場の設定」「気付きや自分の考えを整理分析するための手立て」「子どもの思いや学びを位置付け、関連付け、価値付けるための伝え合う場の工夫」「振り返る視点の明確化」をポイントに授業を通して発信しました。両校共、子ども達がそれ

ぞれの課題をしっかりと持ち、十分に体験してきたことを基に、自分の思いを表現し、それぞれの学びを共有し合う授業が展開され、これまでの取り組みの成果を子どもの姿を通して感じ取っていただけたことでしょう。課題別分科会では、各会場校で8分科会2提案ずつ、合計32提案がなされ、全国大会にふさわしい研修の場となりました。

大会2日目は、大阪市中央公会堂において全体会を行いました。開会行事に引き続き、基調提案では、大会主題を受けて、「価値ある体験」「思考・判断に基づいた豊かな表現」「学びを拡げ深めあう協同的な学び」の学習の3要素を関連させて、学びを実感させる教師のコーディネート力について、具体的な実践事例を挙げながら発表致しました。その後、文教大学教授嶋野道弘先生による記念講演が行われ、「授業は子どもが主役だが、授業づくりの鍵は、教師が握っている」と生活科・総合における教師の指導性について改めて考えさせられました。また、棚橋電機(株)の棚橋秀行社長からは、会社経営者の立場から、「人を育てる」ためのエネルギーな思いをお話いただきました。そして、大会の締めくくりとして「未来に響け！生活・総合」をテーマに文部科学省教科調査官田村学先生、兵庫教育大学大学院教授佐藤真先生による対談が行われ、「授業を先生中心から子ども中心へ、受け身から探究へ」と、これからの生活科・総合に必要なとされる教師の指導力や心意気等について多くの示唆をいただきました。

新学習指導要領全面実施の年にふさわしく、850人を超える参会者を得、生活科・総合に対する熱意を益々高揚させて、盛会裡に終えることができました。これも、大会に向けてご指導・ご尽力・ご支援賜りました多くの皆様方のおかげと心より感謝申し上げます。これを機会に新たなスタートをし、研究を一層推進して参りたいと思います。

第13回関東地区小学校生活科・総合的な 学習教育研究協議会 茨城大会を終えて

大会主題 「わくわく・どきどきが伝わる
生活科・総合的な学習の創造」
～豊かな体験と探究活動を通して～

大会実行委員長 坂 場 安 男
(茨城町立石崎小学校長)

第13回関東地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会茨城大会を、平成23年11月11日(金)に、茨城県牛久市中央生涯学習センターと牛久市立神谷小学校で開催いたしました。

大会当日は、朝から雨模様の肌寒い天候となってしまいましたが、関東1都6県及び宮城県仙台市と福岡県福岡市から合計520名の方にご参加いただきました。

大会の準備は、平成21年度から始め、関東地区各都県的生活科・総合的な学習教育研究協議会の皆様の協力を得て進めてまいりました。

茨城県内での連絡調整が不十分で、関東地区道徳教育研究協議会茨城大会と同日開催になってしまいました。県内からたくさんの参加が難しいと予想して、少な目の参加予定数を見込んで計画を立てたところ、予想以上の参加申込があり、大会紀要も増刷するほどでした。

午前9時30分からの公開授業は、牛久市立神谷小学校で行われました。1年生から6年生までのすべての学級(17学級)が授業を公開いたしました。雨の中、4年生は、ピオトープのあるところにテントを張り、その中で外部講師を招いて、低湿地のハツ田をこれからどのようにしたらよいかを考える学習を行っていました。現場を見ることで、参観者にも内容が分かるようにとの温かい配慮に感激いたしました。

その他にも、児童自らが課題意識を持って学習に取り組む姿が見られ、各教室とも参観者が入りきれないくらいの熱気でした。

11時から、会場を牛久市中央生涯学習センター

に移し、開会行事及び全体会を行いました。

昼食後、6つの分科会会場に分かれて、課題別分科会が熱心に行われました。参加者数が予想を上回り、どの分科会会場も狭くなって申し訳なく感じました。生活科は「気付き」と「伝え合い」の視点で、総合的な学習は「探究活動」「地域との関わり」「評価」の視点で協議を進めました。

各分科会では、実践をふまえたすばらしい提案発表と、熱心な質疑応答があったと聞いております。

15時から、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の田村学先生からご講演をいただきました。『豊かな体験と探究活動を仕組む授業づくり』という演題で、1時間20分のお話を聞かせていただきました。

田村学先生は、全国各地の実践例を写真映像で見せながら、新学習指導要領改訂の趣旨から、生活科や総合的な学習がめざす子ども像を、具体的に分かりやすくお話くださいました。圧巻は、午前中の牛久市立神谷小学校の授業の写真を紹介して、会場に駆けつけた神谷小学校の先生と振り返りをしていただいたことでした。授業によって、先生の仕掛けによって児童の表情が変わる様子を、田村学先生のカメラは良く捉えていました。大変感銘を受けました。

来年度は、東京都が開催地となります。実行委員長の諸岡浩校長先生から、次回開催の力強いご案内をいただき、大会を無事閉じることができました。

大会報告書を作成いたしました。その中に、田村学先生のご講演内容が詳しく掲載されております。関心がおありの方は、下記のところにお問い合わせください。(数に限りがあります。有料です)

東茨城郡茨城町立石崎小学校 校長 坂場安男

TEL029-293-7016 FAX029-293-7218

第18回東北小学校生活科・総合的な 学習教育研究大会宮城大会を終えて

大会主題 「夢と希望をはぐくむ生活科・
総合的な学習」

大会実行委員長 東北地区会長 西嶋茂雄
(仙台市立虹の丘小学校長)

第18回東北小学校生活科・総合的な学習教育研究大会宮城大会を、平成23年12月16日（金）仙台市立広瀬小学校を会場として開催し、盛会裏に終えることができました。

大会当日は、あいにくの降雪となり、寒い中での開催となりましたが、北は青森県、南は長崎県からもご参加をいただき、総計600名に迫る中での開催となりました。年末のご多忙の中にも関わらず、東北はもちろんのこと、全国各地からお越しいただきましたことに、心から感謝申し上げます。

さて、3月11日の東日本大震災後、私たちは、「東北は一つ」の思いをより一層強固にし、「大会を成功させることが復興の第一歩である」と位置付けて取り組んで参りました。この間、東北各県の理事の方々をはじめとして、全国の皆様から、物心両面において多大なるご支援を賜り、160名の大会実行委員は、勇気と希望を抱くことができました。大会が盛会裏に終えることができましたのも、ひとえに、全国の皆様のご支援の賜であると改めて御礼申し上げます。

本大会は、新学習指導要領全面実施の下に開催されるものであり、極めて意義ある大会であると考えておりました。今回の改訂においては、「身近な人々、社会及び自然とのかかわりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活することができるようにすること」（生活科）や「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」（総合的な学習の時間）が重視されています。

こうした学習指導要領の趣旨を踏まえて、本大会のテーマを「夢と希望をはぐくむ生活科・総合的な学習の時間」といたしました。サブテーマとして、

「子どもの思いや願いを大切にしたい単元、授業づくりを通して」と題し、私たちは、新たな実践研究を積み重ねて参りました。こうした最中に、東日本大震災が発生しました。未曾有の甚大な被害を被ることにより、まさに、「夢と希望をはぐくむ」ことが、より現実的で切実な喫緊の大きな課題となりました。「気付きの質を高め、探究的な学習活動を展開する」指導を通して、「生きる力」をはぐくむことの重要性を改めて認識するに至りました。

会場校である仙台市立広瀬小学校は、平成20年から3年間、国立教育政策研究所「学力の把握に関する研究指定校」として、「指導と評価の一体化の重要性」について、実践研究を通して明確にするなど、大きな成果を上げて参りました。その研究の成果を踏まえて、この度の東北大会の開催に至りました。会場校の校長熊谷和彦氏は、これまで、生活科と総合的な学習の理論的支柱として、仙台市の教育研究会をリードされてきました。熊谷和彦校長の指導の下、教職員の皆様も熱心に教育研究に取り組み、大きな成果を上げることができました。広瀬小学校の教職員の皆様の使命感及び資質の高さに改めて感銘を受けたところであります。

また、本大会開催に当たりましては、生活科・総合的な学習の研究の第一人者であります文部科学省教科調査官田村学先生をはじめ、愛知教育大学教授野田敦敬先生、上智大学教授奈須正裕先生、兵庫教育大学大学院教授佐藤真先生、岩手大学教授名古屋恒彦先生から指導助言者として、御指導を賜る機会を得ることができました。改めて、生活科・総合的な学習の今日的意義を再認識した次第です。指導助言者の先生方に、心から感謝申し上げます。

閉会式では、来年度の開催県である山形県を代表して、山形市立南小学校長豊島孝宏先生から、次回開催に向けて、心温まるご案内をいただきました。大会成功に向けて、東北の総力を結集することを誓い合い、大会の幕を閉じました。

次回大会の盛会と今後の生活科・総合的な学習教育のさらなる充実を祈念しております。

今年度の成果と次年度課題

全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会

会長 茂木三枝
(江東区立北砂小学校)

本年度は新学習指導要領の全面実施の年となり、各学校では生きる力の育成を各教科において実現し、改正教育基本法のめざす教育の具現化が図られています。そうした中、第20回 全国大会が近畿ブロック大会を兼ねて、平成23年11月17日・18日に大阪府で開催されました。また、北海道ブロックでは北見大会、東北ブロックでは仙台大会、関東ブロックでは茨城大会、九州ブロックでは鹿児島大会が開催され、授業提案や研究発表により、生活科や総合的な学習の時間の新たな充実した実践が伝えられたことは、大変意義深いことです。

大阪大会では、「価値ある体験」「豊かな思考・判断・表現」「学びを拓げ深め合う協同的な学習」が響き合うことにより、子供たちが未来に向かって主体的・創造的に生きていく力を育むことをめざしました。大阪市と堺市の二校で公開授業と課題別分科会が行われ、ここでの提案と報告には自信をもった子供の姿と子供たちを見つめ支える教師の姿がありました。そして、多くの参加者の熱気ある意見交換がありました。大阪大会を推進してきた大会実行委員長の前田都陽子校長先生を始め、大阪府の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

また、今年度の第1回全国理事会で提案されたホームページが11月に開設されました。この生活科・総合教育だよりも掲載されています。より多くの先生方が本研究会の活動を知り、参加されることを期待しています。また、ホームページを介して各ブロックが情報交換し、本研究会が一層つながりを深め、発展することを望みます。

さて、昨今の社会に起こる様々な出来事、困難や予想のつかない事象に出会う中、子供たちには、たくましく生きていく力が本当に必要だと思えます。学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた生活科や総合的な学習の時間は、子供たちが主体的に考え、判断し、行動する力を育てると確信しています。授業実践を推進し、子供たちの姿や変容でその成果を伝え、広め、定着させることが本研究会の課題です。その課題に向かって努力していきたいと考えます。

〈事務局だより〉

全国大会を終えて

事務局長 川島瑞穂
(東京都北区立堀船小学校長)

平成23年11月17日・18日に第20回の全国大会が大阪府において開催されました。おかげさまでたくさんの参加者を得て、多くの成果をもたらせた大会となりました。今回は1日目に2つの会場（大阪市と堺市）において授業提案と課題別分科会が行われ、笑顔いっぱい生き生きと活動する子供たちの姿を基に活発な話し合いがなされました。2日目の基調提案では、確かな学びを実感できる生活・総合的な学習のための授業改善の提案がなされ、また記念講演・講演・対談では、講師の先生からの貴重なお話をうかがうことができました。何が起こるか分からない先の見えない時代だからこそ、生活科や総合的な学習の時間の重要性を改めて実感しました。本大会の開催にあたり、長期にわたり準備を進めてこられた前田都陽子大阪大会実行委員長をはじめ多くの実行委員の皆様へ深く感謝申し上げます。

第2回理事会は、11月17日に23都道府県の理事、歴代顧問、事務局等39名の出席者で開催しました。次期東京大会（第21回大会）における課題別分科会の各都道府県への発表分担の協力依頼がなされ、各都道府県の役員が東京大会の成功に向け協力することを確認しました。

◇理事会の運営について

本理事会は、年間2回、例年7月の第1週の金曜日に東京都で1回目を、また全国大会の第1日目に第2回を開催しております。各都道府県の理事が不参加の場合には代理の方の出席をお願いしております。第1回の理事会では、活動計画や予算案の検討、全国大会・地区大会の案内、情報交換、教科調査官をお迎えしての講演会を実施しており、そのあとの懇親会には顧問の先生方も参加され、充実した意見交換の場となっております。

今年度も第1回・第2回理事会とも多くの理事、顧問の参加を得て、生活科・総合的な学習の時間の研究活動に対する意欲の高まりが感じられました。特に第1回の理事会において、本研究会より全国大会に15万円の補助金を出すことが決定され一層一体感が増しました。今後も充実した組織作りを取り組んでまいります。ご協力をお願いいたします。

なお来年度の第1回理事会は7月6日（金）を予定しております。ふるってご参加ください。